

教育環境の整備

福島大学キャンパスツアーを実施しました



めばえちゃんと記念撮影

9/15(火)に川内中学校の3年生が福島大学を訪問、キャンパスツアーを実施しました。川内中学校では、将来の進路選択・決定に目を向けた学習の取り組みや志望校選択の大切さを指導しており、その一環として、昨年からのキャンパスツアーを実施しています。大教室で模擬講義を受けたり、構内を探索したり、目前の高校だけでなくその先にある大学での学びの姿に触れることができ、生徒たちにとって有意義な機会になったようです。

NEWS

相双地域支援サテライト富岡本所

相双地域支援サテライト本所を8月20日、楡葉町から富岡町に移転しました。移転後も相双地域の復旧・復興の支援をこれまで同様に継続してまいります。



〒979-1192 福島県双葉郡富岡町大字本岡王塚622-1
富岡町役場内
電話・FAX番号は変更ございません。
TEL.0240-23-6675 / FAX.0240-23-6676

食農学類
だより

南相馬市におけるスマート農業実証事業と相馬農業高等学校との連携活動

私は、2018年8月に福島大学へ着任して以降、南相馬市を研究フィールドとして活動してきました。特に同市小高区の(株)紅梅夢ファームを実証農場としている「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」では、ロボットトラクタや農業用ドローンといった先端技術を用いて、高い品質の農産物を効率よく生産する技術体系の確立を目指しています。

このような研究活動を通じて、南相馬市で活動する様々な人たちと出会う機会を多く持つことができ、多様な知見を頂けていることに感謝しています。そのようなご縁もあり、相馬農業高等学校とは、同

校附属農場に水田センサーを生徒さんと設置するなどの連携活動を進めています。また、本年10月から本格始動する「食農実践演習」では、本学食農学類学生たちと教員が南相馬市に入って活動を始めます。この演習を通じて、南相馬市の農業従事者の方々、地域の皆さま、高校生などとイノベーションを生み出せるのではないかと想像し、今から楽しみです。

執筆者/食農学類 生産環境学コース 准教授 窪田 陽介 Yosuke Kubota



ちいきのこどもたち



目標は自ら進んで学ぶこと。
新しい学び方「カツテレ」ってなに？

3年前から、村に戻って学校生活を送っている葛尾中学校。画期的な方法でこのコロナ禍を乗り越えています。もともと村自体がICT(情報通信技術)先進地。既存のネットワークインフラが活用でき、全生徒及び教員が教育用に整備されたiPadを使用していたことから、臨時休校中も自宅にいながら先生と双方向オンライン授業「カツテレ」(生徒が名付けた愛称)ができました。「カツテレ」では、各自、自分が選んだテーマを自分の力で探究。普段はできない学びにより、新しい発見や達成感を覚えたり、自己マネジメント能力も向上しています。

※「カツテレ」という名称は、生徒が考えたイメージキャラクター「カット君」と、「テレビ授業」を合わせたものです。

相双
まちの声



最新設備の新しい工場で、専務の柴栄さん「請戸の寄り合い所になれば」との思いから工場と同敷地に直売所を併設

柴栄水産
震災前に戻すのではなく、新しく進む復興を目指して！

明治三十年創業。請戸漁港で魚を見極め続けて百二十年余、鮮度と品質に自信を持って常磐物を提供してきました。震災により、工場や事務所、店舗等全てを流し、休業を余儀なくされましたが、今年4月、請戸漁港の水揚げ再開とあわせて、営業を再開。「是非とも地元で営業を」と、工場を浪江町に再建。試験操業のため水揚げ量が少ないこと、風評被害等葛藤がありますが、県外からの引き合いが多いことは嬉しい誤算。これからもおいしくて高品質の水産物をみなさんに届けます。



直売所: 浪江町大字請戸字古川115-7
TEL.0240-23-5411

<https://ifs.fure.fukushima-u.ac.jp/>



次回発行は2021年1月頃の発行を予定しております

26

2020. 秋号

「相双の風」は、相双地域の今と、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)相双地域支援サテライトの地域復興に向けた取り組みを紹介するニュースレターです。相双地域支援サテライトは被災地域と福島大学をつなぐ現地拠点として、地域再生を目指す支援活動を行っています。



屋上からの展望



TOPICS | トピックス

～はばたく ふたば～
双葉町復興のシンボル 双葉町産業交流センター オープン
Futaba Business Incubation and Community Center (略称:F-BICCエフビック)

2020年10月1日、双葉町ではじめて避難指示が解除された中野地区の「復興産業拠点」の中核施設がオープンしました。双葉町産業交流センターは4階建て、貸事務所や会議室、フードコートやレストランなどが設けられた複合施設。復興に向けて人の交流を生む拠点として、大きな期待が寄せられています。

目の前には、9月20日オープンした東日本大震災・原子力災害伝承館。また、復興記念公園には、今後、来訪者の憩いの場になっていくよう緑地の整備が進んでいます。地上20mの屋上展望スペースからは、復興に向かう町が一望できます。これから、この地がどんな風景を紡ぎだしていくか、是非足を運んで、今の双葉町を感じながら思いをはせてみてはいかがでしょうか。



福島大学公式マスコットキャラクター めばえちゃん

広野町

Hirono town

トロピカルフルーツミュージアム
今度は国産コーヒー栽培中



広野町振興公社で運営しているトロピカルフルーツミュージアムでは国産のバナナに続き、来年の初収穫に向け、全国でも珍しい国産のコーヒーを栽培中です。無農薬コーヒーを栽培する為にハウス栽培で気を付けている事は「害虫がついて病気になるように常に観察すること」と館長の田村さん。このままコーヒーの実が赤くなれば、広野町の新たな特産品としてコーヒーが加わります。

川内村

Kawauchi village

住民参画型の
地域づくり



10月3日(土)川内村第1区集会所で、第1区住民で設立された「高田島ふるさと支え合い協議会(任意団体)」により、「第1回ふるさと支え合いプロジェクト」が開催されました。「見守りと地域づくりワークショップ」を福島大学行政政策学類の鈴木典夫教授が行い、約30名の住民が参加、日頃の見守りや住民の声掛けを振り返る機会となりました。今後、特産品開発ワークショップ(福島大学食農学類・河野恵伸教授)、郷土料理教室を予定しています。

- ▶高田島ふるさと支え合い協議会
- ▶TEL.0240-23-7040(一般社団法人かわうちラボ内)

榎葉町

Naraha town

ここなら笑店街
来場者
120万人
突破!!



「ここなら笑店街(しょうてんがい)」は、「笑(えみ)ふるのタウンならは」内の商業施設です。平成30年6月にスーパー、ホームセンター、飲食店、理容室、クリーニング店など10店舗でオープンしました。

今年8月29日、「笑ふるのタウンならは2周年感謝祭」にあわせて、120万人突破を祝うセレモニーが開催され、みんなが笑顔になれる商店街の発展を笑顔でお祝いました。



ここなら笑店街
ホームページ

大熊町

Okuma town

キウイ再生奮闘中
3年後の喜びを求めて!



町内で鮭とフルーツを抱えている熊の看板をよく見かけます。公認マスコットキャラクター「おおちゃんくちゃん」です。好物は、鮭、梨、キウイ。町の特産品でした。昨年12月、キウイ再生を通して町に興味を持った人が関わりやすい場づくりを目的に「おおくまキウイ再生クラブ」を発足。収穫までは3～4年かかります。3年後、収穫の感動を共有したいと興味を持った方、是非、ご参加ください!11月には圃場の管理イベントを予定しています。

- ▶おおくまキウイ再生クラブ事務局 TEL.090-9801-1891(栗城)

富岡町

Tomioka town

目標は大きく
つつじ再生プロジェクト始動



「富岡町つつじ再生プロジェクト」の活動は着実に歩みを進めています。町の復興と地域活性化への貢献を目的に今年度よりスタートしたプロジェクト。10月1日、第2回ワークショップが開かれ、つつじの里親さんたちが、大桑原つつじ園・渡辺先生の指導を受けました。里親さんは、鉢に植えた苗を預かり成長を見守ります。夜ノ森の富岡二中で剪定したつつじが町の景色を彩る日を楽しみに一步一步前進しています。



富岡町つつじ再生
プロジェクト
FaceBook

双葉町

Futaba town

「町と人」「人と人」
をつなぎます



3月14日に全線開通した常磐線。双葉駅の旧駅舎は、休憩所や待ち合わせスペースとして生まれ変わりました。まちづくりを推進・サポートしている「ふたばプロジェクト」は、この旧駅舎・ステーションプラザふたばにスタッフを常駐し、訪れる人を外向かえています。駅に降り立った方への道案内をはじめ、町内フィールドワークなどの希望にも対応、また情報発信や駅周辺の環境整備も担っています。この秋、東日本大震災・原子力災害伝承館、双葉町産業交流センターの開館により、多くの方が双葉駅を利用されています。新たな人の流れが、新たに町の風景を彩ります。



ふたばプロジェクト
ホームページ

浪江町

Namie town

立野の丘から
～菜の花
&ミツバチプロジェクト



はまっと一極蜜は「道の駅なみえ」で購入できます。
道の駅なみえ 駅長の東山さんと
「菜の花&ミツバチプロジェクト」の平本さん

浪江町にはおいしいものがたくさんあります。その中でニューフェイスは「はまっと一極蜜」。透明度の高い、さわやかな味わいが特徴です。先祖から受け継いだ田畑をなんとか再生したい、まず地力を回復するために、菜の花、れんげ、ひまわり、そばを植えたことがはじまり。プロジェクトのメンバーは避難先から通い、農地再生に取り組み、「養蜂」という新たな挑戦を続けています。愛情と手をかけた、まさに極上の蜜!一度食べたら「はまっと〜!(はまる)」



なみえチャンネル
「うまいもん探検隊」

田村市

Tamura city

民話で地域活性化



都路町で、7月26日(日)に都路民話の会(代表:渡辺美智子)が、「昔話の語りと絵本の読み聞かせの会」を開催、地元の小学生や住民25名が参加しました。福島大学のサテライト川内分室が企画や開催で協力、都路民話の会が、町に伝わる民話などを方言で語り、参加者は興味深く聞き入りました。今後、「都路方言かるた」と「都路の民話集」を都路民話の会による実行委員会、福島大学人間発達文化学類・半沢康教授らが中心となって、文化庁委託事業で作成する予定です。

- ▶都路民話の会事務局 TEL.0247-75-2496

葛尾村

Katsurao village

村の発明家!!「貴方のアイデアを
形にできるかもしれません」



松山工業・代表の松本哲山さんは、葛尾村で自ら会社を立ち上げ、数々の農機具や工業製品等を開発・製作、特許も取得しています。最近では、田畑の雑草処理用の「雑草散布機」、作業効率が良い「羊やヤギのヒズメを削る削蹄(さくてい)機」を開発・実用化、この削蹄機は、葛尾村の羊肥育場で使用されています。これからも、相談を受けながら、オーダーメイドの設計、機械の製作を通して、さらなる社会貢献を目指しています。



松山工業
ホームページ

- ▶松山工業(葛尾村大字落合)
- ▶TEL.080-1806-1824 FAX.0240-23-6083

飯舘村

litate village

「ふかや風の子広場」
がオープン!



8月、いいたて村の道の駅までい館北側に多目的交流広場ができました。屋内運動施設「ひみつ基地どきどき」には木のぬくもりを感じられる大きな滑り台や積み木がたくさん。天然の芝生が気持ちいい屋外公園スペースには、「もしもし洞窟」など、個性的な遊具が子どもたちを待っています。どきどきワクワクがいっぱいつまった広場、是非ご家族で遊びに来てください。

- ▶屋内運動施設の利用時間は10:00～16:00までの入替制、水曜日休館。
- ▶①10:00～12:00 ②13:00～14:30 ③15:00～16:00
(新型コロナウイルス感染防止対策として、人数の入場制限を行う場合があります。)
- ▶TEL.0244-26-7340

川俣町

Kawamata town

山木屋の新たな
交流拠点
「コテージやまこや」



オーナーの紺野さん
「そば打ち体験や
合宿での利用も
できます」

山木屋の十割そば、川俣シャモを使った親子丼などおいしい郷土料理をいただける「語らい処やまこや」は、山木屋に戻ってきた町民のみなさんのいこいの場として、平成29年9月にオープンしました。今年9月にその隣にできたのは「コテージやまこや」。1棟貸切での宿泊施設で、最大14名が宿泊できます。オーナーの紺野さんが「山木屋でみんなが集まれる場所を」との思いがこもったコテージ。一時帰宅の宿泊や、親戚一同で集まる機会に是非ご利用ください。

- ▶コテージやまこや/https://yamakoya.com/
- ▶TEL.024-563-2342(火・水曜日を除く11:00～16:00まで)